

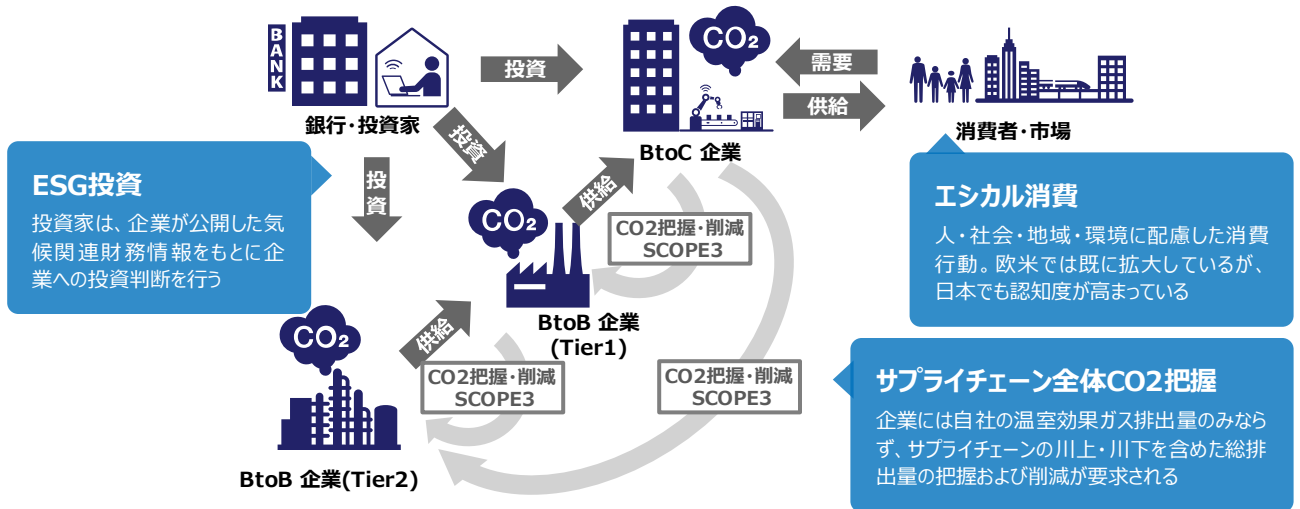
グローバルSCMシミュレーションサービス

温室効果ガス排出量削減支援シミュレーションのご紹介

企業のカーボンニュートラルへの取り組み

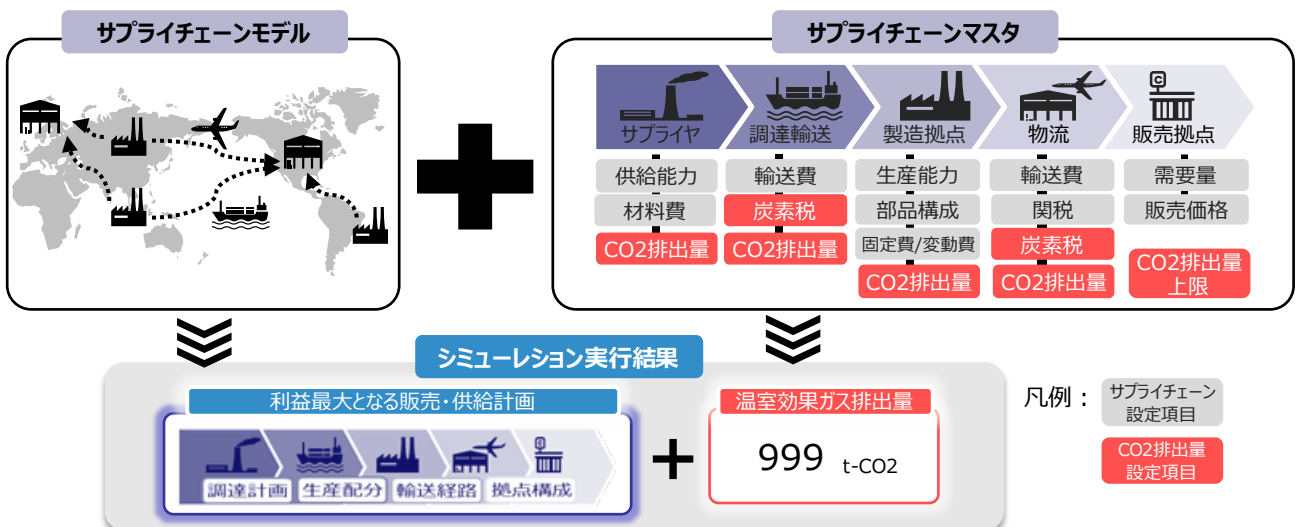
日本政府は2050年カーボンニュートラルの実現、2030年にGHG排出量を2013年比▲46%削減する目標を発表。脱炭素に向けた取り組みは、欧州を中心にデファクトスタンダードが構築されつつあり、日本でも早急な対策が求められる。

ESG投資	企業責任	省エネ法・温対法
2006年の国連のPRI（責任投資原則）に基づき、「環境」「社会」「ガバナンス」に取り組む企業がこれからの投資先となる	SDGsは国連で採択された2030年に向け持続可能な開発を実現するための17の目標。企業の取り組みが求められる	年に1回の定期報告が義務付けられていたが、今後は非化石エネルギー利用促進計画など削減に向けた報告が必要となる



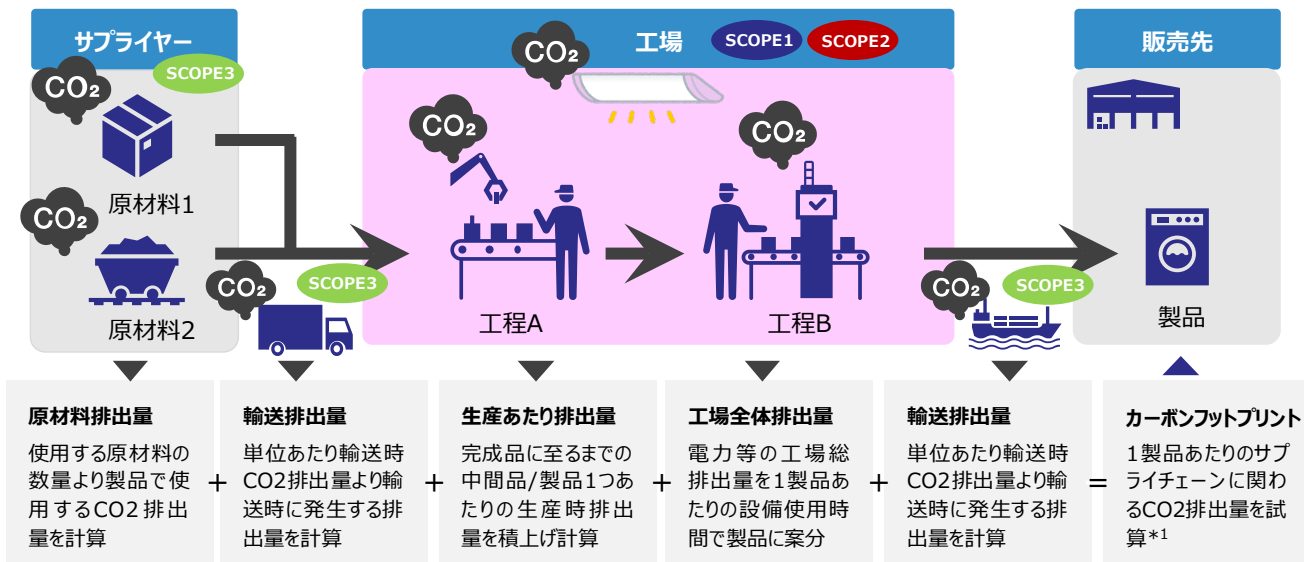
温室効果ガス排出量シミュレーション機能

排出量マスタを定義しシミュレーションすることで、川上、川下を踏まえたサプライチェーン上の温室効果ガス排出量を計算することができます。



上下流を含めた製造業企業のカーボンフットプリント試算

シミュレーション上の仮想空間で、サプライヤーから販売先までのサプライチェーンを再現し、その過程で発生する製品あたりの温室効果ガス排出量（カーボンフットプリント）を計算することができます。



*1 SCOPE3のうち直接サプライチェーンに関わるCATEGORY1,4,9 に対応

温室効果ガス排出量削減支援シミュレーションの効果

- Point 1** **最終製品単位の温室効果ガス排出量を求めます。**工場での利用エネルギーは発生量を生産時間で配賦し、使用燃料は単位当たり発生量から求めます。
- Point 2** **各工程や設備での温室効果ガス排出量を可視化**することにより、対策すべき排出量ボトルネック工程、設備を把握できます。
- Point 3** 設備の生産上限をマスタ管理しており、将来の販売計画に対して**生産が可能であるかを評価し、実際の生産量に応じた温室効果ガス排出量を計算**します。
- Point 4** シミュレーターを用いることで、「**排出量削減施策**」実行した場合の**温室効果ガス削減効果を数値で確認**することができます。

※本リーフレット中の会社名、商品名は各社の商標、または登録商標です。
 ※本文中および図中では、TMマーク、®マークは表記していません。
 ※製品の仕様は、改良のため、予告なく変更する場合があります。
 ※本製品を輸出される場合には、外国為替及び外国貿易法ならびに米国の輸出管理関連法規などの規制をご確認の上、必要な手続きをお取りください。
 なお、ご不明な場合は、当社担当営業にお問い合わせください。

商品・サービスに関するお問い合わせ・ご相談受付
www.hitachi-solutions.co.jp/inquiry/

※ご相談、ご依頼いただいた内容は、回答などのため、当社のグループ会社に情報を提供し対応させていただくことがあります。取り扱いには十分注意し、お客様の許可なく他の目的に使用することはありません。



本リーフレット掲載商品・サービスの詳細情報
<https://www.hitachi-solutions.co.jp/globalscm/>

株式会社 日立ソリューションズ
www.hitachi-solutions.co.jp